

# わがまち紹介



## 美浦村

教育から観光まで  
美浦らしさを発揮

### 地域資源を活用し 小さくとも個性あるまちへ

本村が目指す将来像は、「人と自然が輝くまち 美浦」です。霞ヶ浦から筑波山を望む美しい風景、日本に2か所しかない日本中央競馬会の調教施設であるJRA美浦トレーニング・センター、豊かな自然が育む農水産物、陸平貝塚をはじめとする貴重な歴史遺産など、本村らしい地域資源を活用して村民の皆さんとともに協働のまちづくりを推進してきました。近年は、映画『ゴジラ-1.0』のロケ地となった大山湖畔公園(鹿島海軍航空隊跡)の一般公開、『ウマ娘 プリティーダービー』や『映像研には手を出すな!』などのIP(知的財産)コンテンツを活用した観光事業にも積極的に取り組んでいます。

小さな自治体のため、財源や労働力などの面で弱点もありますが、小さいからこそ課題解決に一体的に取り組めるといった強みもあります。そうしたメリットを生かし、今後も独自の村づくりを進めていきます。

### 村内3校を統合し 美浦小学校が開校

今年、本村は誕生70周年を迎えました。この節目となる年に、木原小学校、安中小学校、大谷小学校の村内3校を統合した「美浦村立美浦小学校」が開校し、4月8日に開校式、翌9日に第1回目の入学式を行いました。

小学校統合の背景には、深刻な少子化の進行があります。1学級10人以下まで児童数が減った小学校も



美浦村長  
中島 栄 氏

株式会社筑波銀行  
美浦支店長  
高橋 慎

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県稲敷郡美浦村です。筑波銀行美浦支店長 高橋 慎が美浦村長 中島 栄氏にお話を伺いました。

ある中で、村内の教育格差をなくすため統合を呼びかけたのは7年前のことです。当初は、各地域の歴史ある小学校が閉校することに戸惑う意見も出ましたが、議論を重ねた末に保護者の声が賛成でまとまりました。私自身、小学校の統合事業を責任持ってやり遂げたいという強い思いがあり、村長に就任して5期目となる2023年に校舎の新築工事に着工、今年3月の竣工に至っています。

統合小学校は美浦中学校の敷地内に建築したため、新たな用地取得の必要がなかったことに加え、体育館やグラウンドは中学校の既存施設を共用することができます。それらの予算を抑えられた分、統合によって遠距離通学となった児童が安心して通学できるようスクールバスの充実を図りました。現在、計11台のスクールバスが村内を運行し、下校時には児童館を利用する児童の送迎も行っています。スクールバスには、置き去り防止のための自動検知式人感センサーを装備するとともに、車内のQRコードリーダーで児童がいつ、どこで乗車・降車したかを記録し、保護者に通知するシステムも整備しています。また、徒歩で通学する児童についても、校舎の昇降口にQRコードリーダーを設置し、登下校を保護者に通知しています。

教育面では、新しい授業方式の導入の検討を進め、今年4月には外国語指導助手（ALT）を増員しました。子どもたちが心豊かに成長し、美浦小学校の歴史を刻んでいけるようにしたいと考えています。



2025年4月に開校した美浦小学校

## 小学校から村議会まで いち早く情報化を推進

社会の情報化が進む中、ICT機器の導入と利活用いち早く取り組んできたのも本村の特徴です。2010年には、村内の小学4年生以上のすべてのクラスに電子黒板を設置し、1人1台タブレット端末を配付しました。また、役場と村内の避難所に無線LANを整備し、住民向けのWi-Fiスポットを設置するなど、災害に強い情報連携システムを構築しています。さらに2014年には村議会議員にも1人1台タブレット端末を配付し、情報共有や事務局との連絡など村議会の完全なペーパー

レス化を実現しました。この取り組みが注目され、各地の自治体から視察が相次ぎました。もちろん役場の業務もICT化が進み、全庁舎と各出先機関が行政ネットワークでつながっています。

小学生の頃からタブレット端末の扱いに慣れている本村の子どもたちは、高校や就職先でもタブレット端末やパソコンをスムーズに扱うことができます。情報の即時性という点でICT機器は非常に優れており、近年はAI技術も浸透しつつありますが、自分で正しい情報を取捨選択できる判断力を養うような教育が、今後さらに重要になると思われます。

## 観光大使やイベントでも 独自性を発揮

個性と活力にあふれた村づくりに向けて、本村の特色を生かした観光・交流促進を展開しています。2024年には、実在しない架空の人物・浅草みどり氏を観光大使に委嘱するという、全国でもめずらしい取り組みが注目されました。浅草みどり氏は、漫画『映像研には手を出すな!』に登場するキャラクターで、「大きな湖の湖畔に位置する旧軍跡地に、旧軍の飛行艇を発見し、冒険する」という作中の景観が本村の立地と似ていることから、実写版映画およびドラマ化のロケ地となったことがきっかけです。大山湖畔公園で開催された「廃墟景観シンポジウム」では作者の大童澄瞳先生のトークショーもあり、多くのファンが集まりました。

2025年には田所あずきさんを2代目観光大使に委嘱しました。田所さんはアニメ『ウマ娘 プリティーダービー』でシンボリルドルフの声優を務め、関連イベントへのゲスト出演などでもしていただいたご縁があります。今後もさまざまな式典やイベントで、本村の魅力をPRしていただく予定です。

県外からも大勢の集客に成功した新しいイベントも複数あります。たとえば、去年と一昨年に大山湖畔公園で国内最大規模のバス釣りイベント「バサーオールスタークラシック」が開催され、約1万5,000人が来村しました。

今年9月23日には、村全体で“馬”を盛り上げる初のイベント「美浦村UMAフェスタ」を開催したところです。光と風の丘公園、みほふれ愛プラザ、JRA美浦トレーニング・センターの3会場で、ポニーふれあい体験、馬運車の展示、騎手のトークショー、騎手と大山湖畔公園と陸平貝塚を巡るツアー、乗馬体験などさまざまな企画を実施し、トータルで約7,000人もの来場者で大盛況となりました。

また、11月20日から12月2日にかけて、『ウマ娘 プリティーダービー』とのコラボイベントを開催します。新しい試みとして、馬のまち・滋賀県栗東市と協力して『ウマ娘 プリティーダービー』を盛り上げます。



JRA美浦トレーニング・センター乗馬苑で実施された乗馬体験

## 多彩な活躍が光る 地域おこし協力隊

観光・交流促進では、地域おこし協力隊も活躍しています。現在、村内で活動している隊員は8名おり、ホースセラピー、害獣対策、ドッグイベント開催、みほーすふぁーむメニュー開発、大山湖畔公園の利活用など、多様な活動をしています。

馬に関するイベントなどで目立った活躍をしてくれたのが南川麻綾さんです。南川さんは、2013年から2016年までJRA美浦トレーニング・センターで競走馬の番組リポーターとして活躍され、調教師やジョッキーとスムーズに連携を取ることができます。現在も各種競馬番組に出演しており、その知名度を活かしてSNSで美浦村をPRするなど、柔軟な地域おこし策を展開してくれています。

地域おこし協力隊の任期は3年間ですが、住民とのふれあいが深まり、退任後も本村に住んで事業をされている方もいます。それが村川勇介さん・栄子さん夫妻です。勇介さんはブラックバス釣りのプロとし活動しながら、毎年冬に大山スロープの清掃活動を10年以上続けてきました。また夫婦で、旧鹿島海軍航空隊跡の自動車庫で美浦村週末カフェを運営しています。現在は、水辺レジャーで来村された方たちに安全に安心して楽しんでもらうため、大山スロープの維持管理事業を担われています。

## 引退した競走馬で畑を耕し 美浦産ぶどうでワインを醸造

1978年に開設された美浦トレーニング・センターは、本村の発展に欠かせない存在です。約224万平方メートル（東京ドーム約48個分）の広大な敷地を有し、約100の厩舎で約2,000頭の競走馬がトレーニングをしています。主に競走馬としての活躍にスポットライトが当たりますが、私たちは引退した競走馬の余生にも目を向けています。その取り組みの一つが、馬耕（馬が畑を耕すこと）を取り入れたワイン用ぶどう栽培です。発案したのは調教師の方で、それに賛同した方々により取り

組みが進められています。村内の大手農機具メーカーがサラブレッドの力に合う鋤を開発し、2021年に馬ふん堆肥を活用した土作りからスタートしました。翌年に7種類のぶどうを植えたときは、私も畑で作業を見守りました。昨年には初収穫を迎え、長野県のワイナリーに委託してワイン醸造を行いました。

さらにぶどう畑を広げたいという意欲があり、村としても応援したいと考えています。たとえば、小学校の跡地を活用し、空き教室にぶどうの熟成タンクを置いて地元でワイン醸造までする、あるいは跡地の半分をぶどう畑、あとの半分で乗馬体験やホースセラピーをするなど、さまざまなアイデアが考えられます。

## 農業や工業の振興が まちの発展を牽引する

産業振興について、農業では良質な米をはじめ、マッシュルーム、レンコン、パプリカ、トマト、常陸秋そばなど豊富な特産品があり、さらに霞ヶ浦で水揚げされた魚の水産加工品、畜産品も生産されています。

特徴的なのは、国内最大級のパプリカ専用の植物工場があることです。10年以上前に施設を誘致する際は経済課が国の補助金申請をサポートし、土地の賃貸借について村が地権者との交渉を支援しました。以来順調に生産を続け、現在では茨城県がパプリカ生産量で日本一、県内で生産量一位が本村となっています。

工業については、世界的な半導体大手企業の日本テキサス・インスツルメンツが立地しています。世界各地にある同社工場の中でも、高品質なウエハを製造できるのは日本と評価されており、今後も重要な製造拠点であり続けると考えられます。



美浦産パプリカと、その風味を生かして開発したオリジナル商品のスープ

## 筑波銀行に期待すること

当村の指定金融機関は、2つの銀行による輪番制をとっていましたが、現在は筑波銀行の一行のみとなりました。窓口等でも、個人や企業を問わず臨機応変に対応していただいております。今後も風通しよく情報交換をしながら、一緒に本村を盛り上げていきたいと思っています。（取材日：2025年10月10日）

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



### 調教用ゼッケン

JRA美浦トレーニング・センターで調教されている競走馬が実際に使ったゼッケンで、大きさは約100cm四方、素材は布地、色は黄色、黒、緑があります。壁飾りなどにお使いください。



### 美浦ゴルフ倶楽部利用券

東京都心から車で約80分、メジャー大会の開催実績があり、戦略性が高いコースとして知られています。プレーやレストランなどで使える利用券3,000円×10枚(発行日より1年間有効)セットをご用意しました。



美浦村ふるさと納税公式サイト

わがまちの  
ふるさと納税

美浦村

MIHO-mura



### 騎手優勝記念卓上用パネル

2024年の菅原明良騎手の第65回宝塚記念優勝とJRA通算300勝達成、北村宏司騎手の第75回阪神ジュベナイルフィリーズ優勝を記念し、直筆サイン入りのパネル(縦50cm×横18cm)を作成しました。



### 野口勘右衛門のお米

昔から最もおいしいコシヒカリの小さな産地として知られる美浦村安中地区で栽培された「コシヒカリ」です。自然堆肥による土作りにこだわり、粗糠と稲わらの発酵堆肥を一部使用しています。



### うなぎ

うなぎのあぶらと旨みを逃さないよう、蒸す工程は行わず、継ぎ足して使ってきた自家製タレでパリッと香ばしく焼き上げています。うなぎ本来の美味しさをご賞味ください。



### 茨城県産コシヒカリ おかだいらの恵

霞ヶ浦南岸のミネラル豊富な土壌で、栽培期間中は化学肥料と農薬を減らし、安心で安全な米作りをしています。水と土と太陽の恵が詰まったお米は、冷めても美味しいと評判です。



### うなぎ重バーガー

「うなぎを、ご自宅でも手軽に味わっていただきたい」という思いから生まれた人気商品。うなぎ蒲焼きを自家製タレがしみ込んだライスで挟んだ新感覚バーガーです。



### ホギメディカルマスク

美浦村の工場、日本の病院(手術室)シェアNo.1メーカーが製造している高品質マスクです。耳が痛くなりやすく、呼吸もしやすいため、マスク使用頻度が高い方にお勧めです。



### ネビュラ モバイルレーザープロジェクター

国内プロジェクターシェアNo.1のAnkerグループ製品。500ml 缶ほどのコンパクトサイズで、明るさと色鮮やかさを兼ね備えた美しい映像が楽しめます。



### アラジン スマートプロジェクター

天井照明器具のシーリングライトに、高性能プロジェクターと高音質スピーカーを搭載した、画期的な照明一体型3in1プロジェクターです。部品の一部を美浦村で製造しています。